



医療法人社団 志仁会
三島中央病院

広報誌

TEL: 055-971-4133

<https://mchp.or.jp>

三島中央病院 だより



撮影場所: 源兵衛川



56

2019年春号

事務長のご挨拶

三島成人式記念駅伝大会に参加しました！

骨粗鬆症の2次骨折予防～リエゾンサービス
について

麻酔科のご案内

薬局のご紹介

ちよっと一息～栄養課～

編集後記

志仁会理念・患者さんの権利

外来担当医表

事務長のご挨拶



事務長 織田 章宏

昨年よりここ三島中央病院の事務長に着任いたしました織田章宏と申します。

前任の菊地からの引き継ぎとなりますが、事務長が変わってよくなったねと言っていたいただけるような病院体制の構築に力を注ぎたいと思っております。受診される患者さん、あるいはご入院される患者さんからこういった言葉でも結構ですので、お声掛けいただければ幸いです。

ここ三島中央病院は一昨年度増改築を終え、新たに196床の病院に生まれ変わりました。いままでは長期療養いただくための病床がなく、転院の手間をお掛けすることもあったかと思ひます。しかし、長期療養に向かうまでの中間的な病床も確保できましたし、長期療養いただくための病床も確保できました。満床でお待たせしてしまうこともあるかと思ひますが、以前よりもスムーズな医療を提供できるようになったと自負しております。

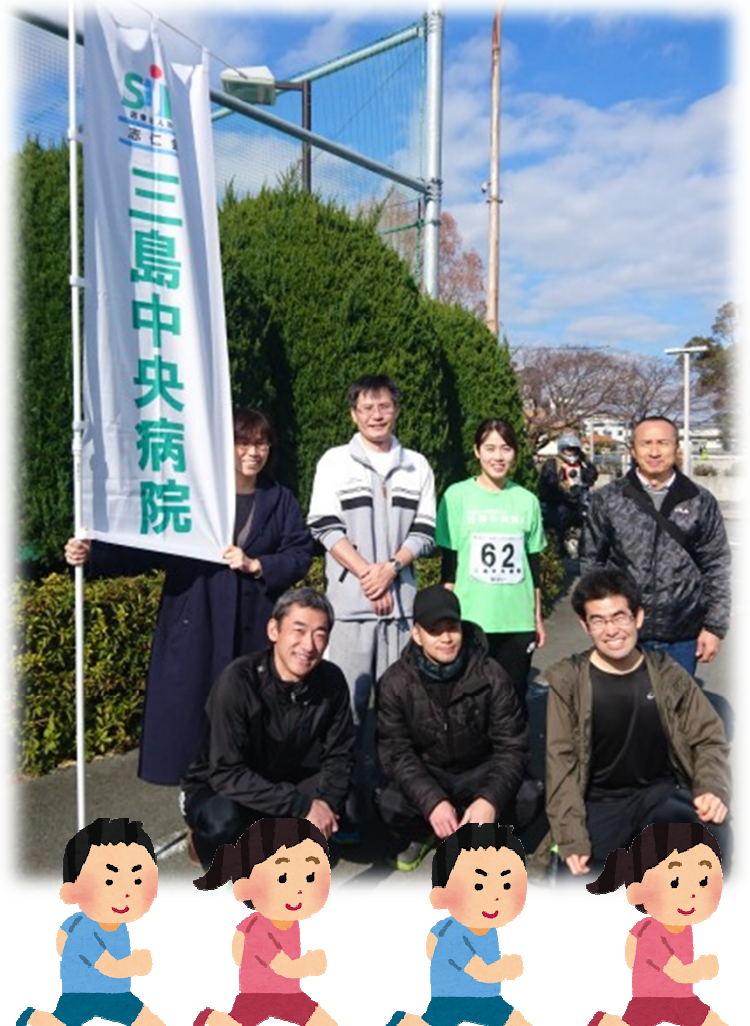
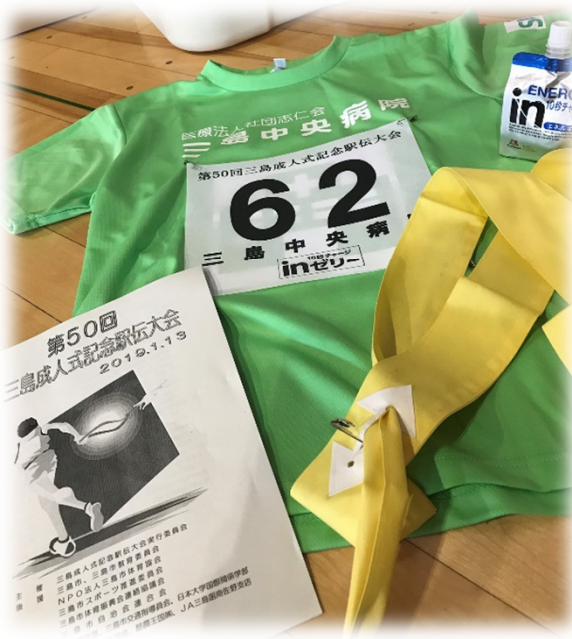
併せて、いままでは外来で行っていた健診部門を独立させることで、新たに健診センターも立ち上がりました。市健診などをお受け頂ける市民のみなさんは、よりスムーズな受診を行っていただけるようになりました。ぜひともご活用ください。

新しくなった三島中央病院及び病院スタッフを今後ともよろしくお願い致します。

第50回三島成人式記念駅伝大会に参加しました！

今年は1チームでの出場でしたが、たくさんの応援してくださる声が励みとなり一人一人が頑張つて襷を繋ぐことができました。

三島成人式記念駅伝大会にはほぼ毎年参加しています。来年も参加予定ですので、緑色のユニフォームを見かけましたら応援のほどよろしくお願い致します。



骨粗鬆症の2次骨折予防～リエゾンサービスについて



高齢者の骨折は転倒によるものが多いですが、その背景には必ず骨粗鬆症があります。また骨粗鬆症の治療により骨折が予防できることは今までの研究報告から明らかになっています。

現在日本の骨粗鬆症患者は1280万人(女性900万人, 男性380万人)いると言われています。しかし骨粗鬆症と診断され治療をしている人は全体の15～20%と非常に低いことが問題です。予備軍を含め1000万人いると言われている糖尿病の治療率は76.6%(2016年)となっています。

一方で最近の骨粗鬆症の治療は以前に比べてかなり劇的に変化しています。以前ではカルシウム薬やビタミンD製剤しか治療薬がなかったため、頑張っても骨密度があまり改善せず、治療の甲斐なく新しい骨折を生じてしまったことも多く経験しました。現在はビスフォスフォネート製剤, SERM, 副甲状腺ホルモン製剤, 抗RANKL抗体製剤など骨密度を改善させることのできる薬がたくさん使えるようになりました。

このような背景もあり、世界的に骨粗鬆症を積極的に治療して骨折を予防しようとする運動が始まっています。リエゾンサービスとはそういった動きから出てきた新しい治療方法です。”リエゾン”とは聞きなれない言葉かもしれませんが、「仲介, つなぎ, 橋渡し」という意味のフランス語です。リエゾンサービスとは医師だけでなく、他業種と連携して治療していくチーム医療を言います。精神科の分野ではこのようなチーム医療はすでに行われています。

当院でも医師, 看護師, 薬剤師, 理学療法士, 栄養士などで骨粗鬆症リエゾンチームを結成し、骨粗鬆症による脆弱性骨折(大腿骨頸部骨折など)で入院手術をされた方に対して2次骨折予防(次の新しい骨折を予防すること)を行っています。具体的な活動内容としてはカンファレンスを行い、患者の骨粗鬆症の状態の評価と適切な治療法を検討します。患者さんおよびご家族の方に対して骨折予防手帳を作成し、骨粗鬆症の予防法や治療法について説明しています。

骨折は介護が必要になる原因の約12%(平成28年厚生労働省報告)といわれています。骨粗鬆症の治療は寝たきりにならないための治療とも言えます。

いつまでも元気で健康な状態を維持するためにぜひ骨粗鬆症の治療を始めましょう！

文責: 整形外科部長 白井利明

医療法人社団三島中央病院 三島中央病院



担当医変更・休診のお知らせ

2020年5月1日 外科医(当院・他院)の休診(5月1日更新)
2020年4月28日 ボールペン(ボールペン)の休診(4月28日更新)

来院を希望される方へ



初めての来院



診察科目



健診センター



入院・退院

医療法人社団三島中央病院

三島中央病院

はじめの方へ 外来のご案内 入院のご案内 健診センター 三島中央病院について 医療関係者の方へ 求人

HOME > 病院概要

三島中央病院について



暮らしの中にある病院

Do It Our Best Will Do Kindness Politely And Reliably

- ▶ 院長あいさつ ▶ 理念・基本方針 ▶ 病院概要
- ▶ 沿革 ▶ フロアガイド ▶ アクセス ▶ 個人情報保護方針
- ▶ 病院指図
- ▶ 外来患者満足度調査報告 ▶ 入院満足度調査報告
- ▶ 診療科目 ▶ 各部門紹介
- ▶ 患者さんの権利 ▶ 患者さんとのパートナーシップ

ホームページが新しくなりました!

<https://mchp.or.jp/>

麻酔科のご案内



当院の特徴は二つあります。ひとつ目は三島市内で最も利便性がよく、196床という職員全員の顔が分かる大きさです。ここに、内科・外科・脳神経外科・整形外科・耳鼻咽喉科・泌尿器科、一般病棟・療養病棟・地域包括ケア病棟のほか、健診センター、訪問診療などを行っています。ここには新生児科や心臓血管外科はありません。つまり当院では静岡県東部地区（伊豆半島を含む）の地域医療として、最も頻度が高く地域に貢献できる総合的な病院であります。

ふたつ目の特徴は、当科つまり麻酔科の存在です。当院の麻酔科は三島で唯一常勤が在席し、それも複数、全てが麻酔科専門医であります。病院で治療を受ける際に心配なことは、特に入院。さらに手術が必要になったときです。日常生活では思いもよらない手術という治療を受ける代わりに麻酔という危険性を経験しなければなりません。それを限りなく安全にやわらげるのが「麻酔科」です。麻酔科医不足のおり、一部の病院では専門科以外の人が麻酔をかけて、患者を危険にさらす可能性が高いと言われております。当院での手術環境は三島市で最も安全だろうと自負しております。手術室は3部屋あり、毎日手術に使用されています。当院麻酔科の基本姿勢は安全・安心は当たり前、高齢者には手術によって日常生活の変化（つまり精神的な悪化）をなるべく避けるため、手術終了当日にはなるべく食事をしていただく方向で調整しています。過度な制限は患者さんにストレスを与えてしまうからです。そして、手術後の疼痛対策にも力を入れております。ほぼ全例に全身麻酔中、覚醒する前には、手術後の痛み対策を考えて実行しております。入院中の患者さんへのペインクリニックも専門医が行っております。

まとめますと、本院は地域の皆様にとって最も身近な病院であり、規模、利便性のよい病院であること。また、三島市内唯一の常勤麻酔科医が複数居て、全員が専門医を持って日夜患者さんの安全性を確保する。その一翼を三島市で担っているのが当院麻酔科です。手術室中心に活動しておりますから、あまり目立たないとは思いますが、黒子くろくに徹して病院の安全性・向上性を支えています。

当院麻酔科のご案内を拝読していただきありがとうございました。

文責：麻酔科部長 小堀正雄



三島中央病院 健診センター

三島市特定健診・がん検診 受診可能(5月-10月)
人間ドック・生活習慣病予防健診・一般健診等

予約時間 平日13:00-16:00

予約電話番号 055-971-4155

定休日 日曜日・祝日

「もしものときに生かしやすい」

健診から治療までをトータルにご提供

Web予約



薬局のご紹介

● 薬局の概要

薬局のスタッフは薬剤師7名、助手1名で、一般調剤のほか、医薬品管理、DI業務、薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務、抗がん剤調製などに取り組んでおり、またチーム医療の一員として感染対策委員会やNST委員会等の活動にも力を入れています。当院では外来患者さんに対してほぼ100%院外処方せんを発行しているため病棟薬剤業務をはじめとした入院患者さんへの業務が主です。

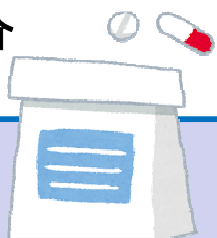
● 病棟薬剤業務

当院では病棟薬剤業務実施加算1を算定し、各病棟に専任の薬剤師を配置しています。病棟薬剤業務では患者さんへの薬剤管理指導をはじめ、医療スタッフへの情報提供、病棟ストック薬の数・期限の管理、持参薬(患者さんが自宅また施設で日常的に使用している内服薬、注射薬・塗り薬・点眼薬などの外用薬)の鑑別・管理、主治医への処方案・処方継続の確認など業務は多岐にわたっています。

持参薬に関しては入院時に薬剤師が預かり鑑定を行います。患者さんが服用している薬の情報で内服歴はもちろんのこと、既往歴やアレルギー・副作用歴を把握することができ、入院治療に対して極めて有用な情報の一つとなります。服用中の薬を正確に情報整理することは入院中の薬物治療の一助となります。入院後患者さんがお持ちの薬は病棟看護師へ預けてください。入院中は薬局が薬の管理を行います。入院中の薬に関しては病棟の専任薬剤師へお問い合わせください。

● 病棟別薬剤師業務の紹介

S棟2階病棟



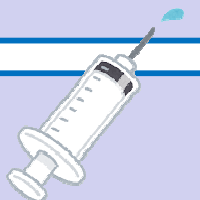
主に外科や脳神経外科、内科の急性期病棟です。ひとりひとりの患者さんの腎・肝機能や、薬同士の相互作用、投与経路などを鑑み、医師・看護師をはじめとした他職種と連携の上、皆様のお手元に最適なお薬を提供しています。入院中のお薬の相談事は病棟薬剤師まで気軽にお伝え下さい。

S棟3階病棟



主に整形外科や耳鼻咽喉科、内科、泌尿器科の急性期病棟です。周術期の薬剤管理をはじめ他職種と連携を取り、より安全安心な治療へ向けて取り組んでいます。また整形外科の患者さんへは骨粗鬆症治療に向けたリエゾンサービスにもチーム医療の一員として加わっています。

A棟3階病棟



2018年8月より開設の地域包括ケア病棟です。具体的には、急性期治療を終え、病状が安定した患者さんの在宅や介護施設への復帰支援を行う病棟です。退院後を考慮した服薬管理指導、次回受診までの薬剤調整等、退院に向け、今後の生活の中でお薬で困ることが無いよう調整を行います。

A棟4階病棟



病状は安定していて引き続き医療的なケアや病院での療養が必要とされる患者さんを対象とする療養病棟です。常用薬の準備と共に内服が難しい患者さんには内服薬の精査、高カロリー輸液を行っている患者さんには点滴管理等、最適な薬物治療を提案できるように努力しています。

脱水に注意!!



春も終わりに近づき、もうすぐ夏になりますね。
熱中症や脱水症状にならないようにポイントをいくつか紹介します。

熱中症とは

熱中症とは高温多湿の環境にいる事で体内の水分のバランスが崩れ、体温調節が働きにくくなり、体内に熱がこもった状態を言います。
屋外だけでなく室内でも発症する場合があります。

水分補給について

①こまめな水分補給を行う。

室内や外出時でもこまめに水分補給を行い、喉が渴いていなくても水分を摂取するように心がけましょう。室内が涼しくても脱水症状になってしまう可能性があるため水分摂取は必要です。

暑さ対策

①室内では扇風機やエアコンを使用し、温度調節を行う。

室内でも脱水や熱中症になる可能性があるため、エアコンや扇風機等で温度管理を行いましょう。

②不用意な外出は控える。

気温が高い日の外出は控え、どうしても必要な場合は日差しを避けるため帽子等を着用しましょう。なるべく日陰でこまめに休憩しながら水分摂取も行いましょう。



編集後記

だんだんと暖かくなってまいりました。病院のそばには源兵衛川があり、川のせせらぎがとても心地よいので、お天気の良い日には運動がてらゆっくり川沿いを散歩してみるのも良いかもしれません。

志仁会理念	当法人は医療・介護を中心に個々のケースに対応できる組織を目指します。 また、地域の医師との連携を強め地域に密着した医療を推進します。
病院理念	親切・丁寧・確実な医療を提供し地域全体を支える病院を目指します。
病院運営方針	1. 患者さんの権利を十分尊重し、心のこもった安全な医療を実践します。 2. 親切・丁寧・確実な医療を提供します。 3. 地域に開かれ貢献できる医療を目指します。 4. 情報提供に基づき、十分な説明と同意による医療を心がけます。 5. 職員が地域医療に貢献していることに誇りをもてる医療を実践します。
看護部理念	三島中央病院の看護職員は、患者さんが安全かつ確実な治療を受けられ、自然治癒力が十分に働くように最良の条件を作り出す援助をします。また、地域の健康への期待と医療の発展に寄与できる専門職としての看護実践を目指します。 看護の基本方針 1. 私達は、患者さんの安全を守るためのルールを遵守し、医療チームの一員として協働します。 2. 私達は、「ナイチンゲール思想」を基に患者さんの生活を創造的且つ健康的に整え、患者さんの『持てる力』が十分に発揮できるように生活過程を整えます。 3. 私達は、患者さん・ご家族の痛み・辛さ・心配や不安を表出できる環境作りとそれを軽減するための努力を惜しみません。 4. 私達は、患者さん・ご家族の疑問点等に対して、理解して頂ける言葉で丁寧に説明する努力をします。 5. 私達は、患者さん・ご家族に『第一級の看護』が贈れるよう、常に謙虚に自己研鑽します。
患者さんとのパートナーシップを強化するために	医療の質と患者さんの安全確保は、医療提供者のみによる取り組みだけでなく、患者さんと医療提供者とが互いの信頼関係に基づき協働して作り上げていくものであり、患者さんの医療への主体的な参加をもって、より確実なものとなると考えています。 当院では、“良質な医療を受ける権利” “医療に関する説明や情報を得る権利” など医療者として十分守るべき「患者さんの権利」を明示すると共に、“自分自身の健康・生命を守る最高の担い手は患者さんです”という考えのもと「患者さんへのお願い」を提示させていただきました。わからないことがあれば納得するまで質問してください。安全確保のためにアレルギー歴などをきちんとお伝え下さい。いろいろな場所で名前を名乗っていただいたり、点滴の確認をしていただくなどの形で診療に参加していただきます。 お困りの点、お気づきの点などありましたら担当看護師等にお申し付け下さい。投書をいただいても結構です。是非、より良いパートナーシップを築いていきたいと思えます。
患者さんの権利	当院は、医療の中心はあくまでも患者さんであることを深く認識し、「患者の権利に関するWMAリスボン宣言（世界医師会）」の精神のもと、患者さんの権利を十分守り最良の医療を提供いたします。 1. 良質な医療を公平に受ける権利 だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質かつ適切な医療を公平に受ける権利があります。 2. 医療に関する説明や情報を得る権利 病気・検査・治療・見通しなどについて、理解しやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報を受ける権利があります。また、自分の診療記録の開示を求める権利があります。 3. 医療を自己決定する権利 十分な説明と情報提供を受けたうえで、治療方法などを自らの意思で選択する権利があります。 4. 機密保持に関する権利 医療の過程で得られた個人情報の秘密が守られ、病院内での私的な生活を可能な限り他人にさらされず、乱されない権利があります。 5. 尊厳を保つ権利 だれもが一人の人間として、いかなる状態にあっても、その人格・価値観などを尊重される権利があります。
患者さんへのお願い	当院は、医療における医師及び医療従事者と患者さんの信頼関係が築けるよう患者さんにも協力をお願いしています。 1. 自分自身の健康・生命を守る最高の担い手は患者さんです。その患者さんと共に私たちは医療を進めていることをご理解下さい。 2. 良質な医療を実現するために、医師をはじめとする医療従事者に対し、患者さん自身の健康に関する情報を出来るだけ正確にお伝え下さい。 3. 納得できる医療を受けるために、医療に関する説明が良く理解できない場合は納得できるまでお尋ね下さい。 4. 医療の安全性を保ち、他の患者さんの安寧を損なわないように定められた規則をお守り下さい。 5. 医療の安全性を高めるための努力を最大限に行っていますが、あらゆる医療行為は本質的に不確実であり、意図せざる結果を生じる可能性があることをご理解ください。

